

## 編集後記

地域に開かれた大学の研究の拠点として、聖徳大学生涯学習研究所は今年で、5年目を迎えようとしています。地域の生涯学習の推進のために「聖徳大学生涯学習フォーラム」の開催や「課題別研究会」など、ささやかではありますが、聖徳大学の人的資源を活用しつつ生涯学習の研究・実践に努めてきました。研究紀要の発行もその一つです。

いうまでもなく大学の研究者などの知的教育研究機能を、地域社会に活用還元することが、これからの大学のあり方としても大きな課題になっています。本学の生涯学習研究所も、まさにそのための重要な研究機能を有していなければならない研究施設であります。その研究機能の一つが、研究紀要の発行であり、平成15年度も、本学の研究成果をここに一部ではありますが、発表することになりました。内容として研究の継続されるものもあれば、新しい領域についてチャレンジする課題もあります。これらの課題は本誌の中で、さらに研究が推進されることを願って、ここに生涯学習研究所の紀要をあらためて発行することになりました。

平成15年度には、文部科学省の私立大学高度化事業「学術フロンティア推進事業」において、聖徳大学生涯学習研究所が応募した「生涯学習の観点から『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的研究」が採択を受けました。そしてその研究の拠点として、「生涯学習社会貢献センター」(仮称)が建設されるなど、この1年間に本学の生涯学習に関する研究環境は大きく変わってまいりました。5年間にわたる研究事業においても、この研究紀要は、これからはますます研究誌としての役割が大きくなるものとして期待されるところです。

前号に続いて、多様な生涯学習の領域の中から、本号でも生涯学習の領域としては従来にない分野において、独創的な研究が発表されています。この内容についても今後さらに研究が拡大していくことに努めていきたいと思えます。

本号では、学術フロンティア推進事業の研究とも重複する部分があるために、今回は研究発表に至らなかった部分もいくつかあるようですが、ここに8つの研究のまとめをもとに、第2号の研究紀要を発表することになりました。「学術フロンティア事業」のまとめとともに、本学における生涯学習の研究成果として、これからの研究に活用されますよう期待するとともに、より充実した研究が今後も続けることに努めたいと思えます。

生涯学習研究所長 福留 強